北薩底曳網漁業改善グループの経営改善等の取組

北薩地域振興局 林務水産課

【背景・目的】

北薩地区で小型底曳網により漁獲されるタカエビ（標準和名ヒゲナガエビ）は昭和40年代に鹿児島県水産試験場により資源開発がなされ、漁業が発展してきた。しかし、近年は漁獲物の価格低迷や漁業資材の高騰等に見舞われ、厳しい経営状態が続いている。

このため、漁場の海底地形図や潮流情報を共有することにより操業の効率化を図る。さらに、タカエビの鮮度保持や混獲される漁獲物の養殖餌料への利用を図り、生産額の向上を目指すとともに、販売促進資材を整備し販路の拡大に努める。

これらの取り組みにより漁業の効率化と漁獲物の価格の向上を図り、漁業経営の安定化を目指す。

【普及の内容・特徴】

1 平成21年度に設立した沿岸漁業者経営改善促進グループ（名称：北薩底曳網漁業改善グループ）を、沿岸漁業者経営改善促進グループ等取組支援事業（水産庁）を活用することによって育成する。

2 支援事業では、以下について取り組んできた。

①漁業情報の共有

海底地形データの編集機能を持ったプロッターを整備し、データの収集・解析を進め、共有化を図る。

②混獲魚の効率的な処理

タカエビに混ざって漁獲される混獲魚は、これまで投棄されてきた。冷凍用のパンカンを整備することで、これらを冷凍して養殖用の餌料に回すことが可能となった。

③漁協直販所・量販店との連携した販売促進、販路の拡大

販売促進資材の整備を行い、漁協の直販所で販売を行った。

【成果・活用】

タカエビは時期により、時間により生息水深が変化し、これにより漁場も移動する。海底地形データの共有化やグループ員間の情報交換により、漁具を目的とする水深に投入することや漁具の曳く方向が分かるようになり、操業の効率化が図られ、漁獲量が増加した（表のとおり）。また、海底地形のデータを共有することで、漁具を紛失する可能性のある瀬をグループ員全体で回避することができるようになり、経費の節減に繋がった。

北さつま漁協と連携し、漁協直販所でタカエビの直接販売等を継続して行った事により、宣伝効果があった。平成23年4月30日から6月11日の間に合計6回の直販活動を実施し、23年度の直販活動での売上総額は513千円であった。

1 グループの認定

認定年月	平成21年5月
会員数	11名（経営者10，法人1）
グループ名	北薩底曳網漁業改善グループ

2 施設整備の実績

年度	区分	名称	数量	備考
H21	漁業情報共有	GPSプロッター	1基	支援事業（全漁連）
H22	漁業情報共有	GPSプロッター	2基	〃
	混獲魚の効率的な処理	パンカン	100個	〃
H23	漁業情報共有	GPSプロッター	3基	支援事業（水産庁）

3 北薩底曳網漁業改善グループ員のタカエビ水揚げ実績

	阿久根港水揚げ		他港水揚げ	合計
	数量(トン)	金額(千円)	金額(千円)	金額(千円)
H20	169	84	32	116
H21	165	84	36	120
H22	178	81	35	116
H23	203	86	42	128